

業況 DI は 3.2 ポイントの低下

～令和元年 4・6 月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和元年 4・6 月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇要 旨

- 総合の業況 DI は、前期比 3.2 ポイント低下の▲20.3 となりました。
- 経営状況では、売上 DI は前期比 1.3 ポイント上昇の▲18.9、また、採算 DI は同 2.1 ポイント上昇の▲25.6 となりました。
- 業種別の業況 DI では、製造業は前期比 10.2 ポイント低下の▲14.7 となりました。中分類では、一般機械は同 17.5 ポイント低下の▲8.5、電気機械は同 12.2 ポイント低下の▲22.6、輸送用機械は同 3.4 ポイント上昇の 0.0 となりました。
- 建設業の業況 DI は、前期比 14.0 ポイント低下の 0.8 となりました。
- 商業・サービス業の業況 DI は、前期比 4.2 ポイント上昇の▲29.9 となりました。商業・サービス業の内訳を見ますと、卸売業は同 9.6 ポイント上昇の▲16.9、小売業は同 2.8 ポイント上昇の▲49.8、飲食店は同 26.7 ポイント上昇の▲10.8、サービス業は同 3.6 ポイント低下の▲13.5 となりました。
- 今後の総合の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 6.2 ポイント低下の▲26.5、半年後は同 10.4 ポイント低下の▲30.7 を見込んでいます。

▼本件に関するお問い合わせ先
(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)
(Kanagawa Industrial Promotion Center)
事業部経営総合相談課 藤田
TEL 045-633-5201 FAX 045-633-5194
URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail: soudan@kipc.or.jp

令和元年 4-6 月期中小企業景気動向調査結果

業況 DI は 3.2 ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和元年 4-6 月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和元年 5 月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業 2,000 社
- ・回答数（率）：1,012 社（50.6%） ＊詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象への郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）＊による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	368	66.9%
建設業	250	134	53.6%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	510	42.5%
合計	2,000	1,012	50.6%

2. 調査結果

（1）総合

	平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
業況 DI	▲17.0	▲12.5	▲17.1	▲20.3	▲26.5	▲30.7
売上 DI	▲12.9	▲6.7	▲20.2	▲18.9	—	—
採算 DI	▲22.1	▲21.4	▲27.7	▲25.6	—	—

総合の業況 DI は、前期比 3.2 ポイント低下の▲20.3 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 1.3 ポイント上昇の▲18.9、また、採算 DI は同 2.1 ポイント上昇の▲25.6 となった。

今後の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 6.2 ポイント低下の▲26.5、半年後は同 10.4 ポイント低下の▲30.7 を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
業況 DI	0.8	6.1	▲4.5	▲14.7	▲25.7	▲25.0
売上 DI	0.3	5.8	▲16.7	▲19.3	—	—
採算 DI	▲6.6	▲10.9	▲22.2	▲24.2	—	—

製造業の今期の業況 DI は、前期比 10.2 ポイント低下の▲14.7 となった。経営状況では、売上 DI は、前期比 2.6 ポイント低下の▲19.3、採算 DI は同 2.0 ポイント低下の▲24.2 となった。「半導体の落ち込みの影響で、厳しい状況が続いている。」「受注単価は変わらないが、経費が多く、利益が下がり、赤字である。」「技能伝承のために継続的に求人を出しているが、採用出来ず、人材が不足している。求人を出しても応募が無い状況。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 11.0 ポイント低下の▲25.7、半年後は同 10.3 ポイント低下の▲25.0 を見込んでおり、「市場の見通しが、国際情勢の変動に伴って悪くなっている。」「業績は、しばらく好調を維持できる。事業の生産効率を上げていけるように尽力する。拡大を狙っていく。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況 DI は以下の通り。

	平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
一般機械	13.8	14.8	9.0	▲8.5	▲26.9	▲28.3
電気機械	▲18.1	▲3.7	▲10.4	▲22.6	▲22.9	▲20.7
輸送用機械	6.3	3.1	▲3.4	0.0	▲23.4	▲35.9
その他	0.8	7.8	▲10.6	▲21.4	▲27.9	▲19.7

中分類で見ると、一般機械は前期比 17.5 ポイント低下の▲8.5、電気機械は同 12.2 ポイント低下の▲22.6、輸送用機械は同 3.4 ポイント上昇の 0.0 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は一般機械が現在比 18.4 ポイント低下の▲26.9、電気機械が同 0.3 ポイント低下の▲22.9、輸送用機械は同 23.4 ポイント低下の▲23.4、半年後は一般機械が同 19.8 ポイント低下の▲28.3、電気機械が同 1.9 ポイント上昇の▲20.7、輸送用機械は同 35.9 ポイント低下の▲35.9 を見込んでいる。

<建設業>

	平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
業況 DI	2.3	8.8	14.8	0.8	▲12.9	▲16.9
売上 DI	1.6	9.4	15.4	▲11.2	—	—
採算 DI	▲9.4	▲1.4	5.2	▲9.8	—	—

建設業の今期の業況 DI は、前期比 14.0 ポイント低下の 0.8 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 26.6 ポイント低下の▲11.2、採算 DI は同 15.0 ポイント低下の▲9.8 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 13.7 ポイント低下の▲12.9、半年後は同 17.7 ポイント低下の▲16.9 を見込んでおり、業況は悪化すると見込んでいる。「2020 年初めからの工事引き合いが減っていて、見通しきかず。現状は好調だが、先行き不安は変わらず、設備への投資もしにくい。」「消費税増税後の状況は確実に悪くなるので、それを考えると頭が痛い。人材不足はここ数年の課題であり、解決策が見えない。」「建設業、鉄骨工事のハイテンボルトが無く、受注が減っている。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
業況 DI	▲34.6	▲30.8	▲34.1	▲29.9	▲30.7	▲38.7
売上 DI	▲26.1	▲19.6	▲32.2	▲20.6	—	—
採算 DI	▲36.5	▲34.0	▲40.0	▲30.8	—	—

商業・サービス業の業況 DI は、前期比 4.2 ポイント上昇の▲29.9 となった。

経営状況では、売上 DI が前期比 11.6 ポイント上昇の▲20.6、採算 DI は同 9.2 ポイント上昇の▲30.8 となった。「海外への輸出が好調。」「昨年 4 月に入社した新人外国人整備工 4 人が力をつけていて、人手不足は解消しつつあります。20 年ぶりに工賃を値上げしましたが、顧客は減ることもなく順調です。」などの他、「やはりカードの使用が増えているので資金繰りが大変です。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 0.8 ポイント低下の▲30.7、半年後は同 8.8 ポイント低下の▲38.7 を見込んでいる。「買物離れ。本当に必要なものしか買わない。商店街に人が歩いていない。9 月迄はなんとか。消費税アップと共にまた売上が下がるだろう。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の業種別の業況 DI は以下の通り。

	平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
卸売業	▲21.4	▲18.0	▲26.5	▲16.9	▲25.0	▲34.5
小売業	▲48.0	▲48.4	▲52.6	▲49.8	▲50.5	▲58.3
飲食店	▲36.8	▲41.7	▲37.5	▲10.8	▲30.3	▲37.9
サービス業	▲20.1	▲5.8	▲9.9	▲13.5	▲0.8	▲4.5

業種別では、卸売業は前期比 9.6 ポイント上昇の▲16.9、小売業は同 2.8 ポイント上昇の▲49.8、飲食店は同 26.7 ポイント上昇の▲10.8、サービス業は同 3.6 ポイント低下の▲13.5 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後では卸売業が現在比 8.1 ポイント低下の▲25.0、小売業は同 0.7 ポイント低下の▲50.5、飲食店は同 19.5 ポイント低下の▲30.3、サービス業は同 12.7 ポイント上昇の▲0.8、半年後では卸売業が同 17.6 ポイント低下の▲34.5、小売業は同 8.5 ポイント低下の▲58.3、飲食店は同 27.1 ポイント低下の▲37.9、サービス業は同 9.0 ポイント上昇の▲4.5 を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
		7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
中規模	業況 DI	▲12.2	▲8.5	▲12.1	▲14.2	▲19.3	▲22.8
	売上 DI	▲9.7	▲0.2	▲14.8	▲12.7	—	—
	採算 DI	▲23.0	▲22.3	▲28.2	▲22.4	—	—
小規模	業況 DI	▲22.6	▲17.1	▲23.0	▲27.2	▲34.9	▲40.0
	売上 DI	▲16.5	▲14.0	▲26.6	▲26.0	—	—
	採算 DI	▲21.0	▲20.5	▲27.1	▲29.2	—	—

規模別の業況 DI は、中規模企業は前期比 2.1 ポイント低下の▲14.2、小規模企業は同 4.2 ポイント低下の▲27.2 となった。

経営状況では、中規模企業は売上 DI が前期比 2.1 ポイント上昇の▲12.7、採算 DI が同 5.8 ポイント上昇の▲22.4、小規模企業は売上 DI が同 0.6 ポイント上昇の▲26.0、採算 DI が同 2.1 ポイント低下の▲29.2 となった。

今後の業況 DI については、中規模企業は 3 ヶ月後が現在比 5.1 ポイント低下の▲19.3、半年後が同 8.6 ポイント低下の▲22.8、小規模企業は 3 ヶ月後が同 7.7 ポイント低下の▲34.9、半年後が同 12.8 ポイント低下の▲40.0 を見込んでいる。

(4) 地区別特徴 (業況 DI)

	平成 30 年		平成 31 年	令和元年		
	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期 見込	10-12 月期 見込
横浜	▲12.0	▲14.9	▲16.0	▲18.7	▲25.6	▲30.3
川崎	▲21.9	▲10.0	▲16.8	▲12.9	▲23.3	▲28.0
横須賀	▲22.4	▲17.0	▲22.0	▲19.4	▲33.0	▲37.0
平塚	▲15.0	▲12.1	▲17.3	▲22.3	▲28.2	▲41.7
藤沢	▲17.1	▲18.4	▲24.0	▲22.2	▲25.3	▲28.6
相模原	▲7.4	▲4.2	▲11.1	▲23.4	▲30.1	▲29.3
厚木	▲11.0	▲3.8	▲1.8	▲15.9	▲21.9	▲20.5
足柄上・西湘	▲34.7	▲16.5	▲30.2	▲34.0	▲28.3	▲32.6

今期の地区別の業況 DI は、川崎地区 (前期比 3.9 ポイント上昇の▲12.9)、横須賀地区 (同 2.6 ポイント上昇の▲19.4)、藤沢地区 (同 1.8 ポイント上昇の▲22.2)、の 3 地区で上昇となり、横浜地区 (同 2.7 ポイント低下の▲18.7)、平塚地区 (同 5.0 ポイント低下の▲22.3)、相模原地区 (同 12.3 ポイント低下の▲23.4)、厚木地区 (同 14.1 ポイント低下の▲15.9)、足柄上・西湘地区 (同 3.8 ポイント低下の▲34.0) の 5 地区で低下となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は、足柄上・西湘地区 (現在比 5.7 ポイント上昇の▲28.3) の 1 地区のみで上昇となり、横浜地区 (同 6.9 ポイント低下の▲25.6)、川崎地区 (同 10.4 ポイント低下の▲23.3)、横須賀地区 (同 13.6 ポイント低下の▲33.0)、平塚地区 (同 5.9 ポイント低下の▲28.2)、藤沢地区 (同 3.1 ポイント低下の▲25.3)、相模原地区 (同 6.7 ポイント低下の▲30.1)、厚木地区 (同 6.0 ポイント低下の▲21.9) の 7 地区は低下すると見込んでいる。

半年後も、足柄上・西湘地区 (同 1.4 ポイント上昇の▲32.6) の 1 地区で上昇となり、横浜地区 (同 11.6 ポイント低下の▲30.3)、川崎地区 (同 15.1 ポイント低下の▲28.0)、横須賀地区 (同 17.6 ポイント低下の▲37.0)、平塚地区 (同 19.4 ポイント低下の▲41.7)、藤沢地区 (同 6.4 ポイント低下の▲28.6)、相模原地区 (同 5.9 ポイント低下の▲29.3)、厚木地区 (同 4.6 ポイント低下の▲20.5) の 7 地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先
 (公財) 神奈川産業振興センター (KIP)
 (Kanagawa Industrial Promotion Center)
 事業部経営総合相談課 藤田
 TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194
 URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和元年4月～6月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		368	134	89	225	67	129	510	1012
業況判断	現在の業況	-14.7	0.8	-16.9	-49.8	-10.8	-13.5	-29.9	-20.3
	3ヶ月後の業況	-25.7	-12.9	-25.0	-50.5	-30.3	-0.8	-30.7	-26.5
	半年後の業況	-25.0	-16.9	-34.5	-58.3	-37.9	-4.5	-38.7	-30.7
経営状況	売上	-19.3	-11.2	-14.6	-34.7	-4.5	-7.0	-20.6	-18.9
	採算	-24.2	-9.8	-24.7	-38.8	-13.4	-30.0	-30.8	-25.6
	引き合い／客数	-15.9	-10.5	-14.8	-37.3	0.0	-16.5	-23.3	-18.9
	単価	-7.1	4.5	-21.6	-31.1	-10.4	-18.5	-23.6	-13.8
	仕入価格	-46.7	-47.4	-49.4	-52.5	-67.2	-17.2	-45.3	-46.1
	資金繰り	-18.3	-7.5	-14.8	-32.4	-17.9	-25.6	-25.7	-20.6
	残業	-24.3	-9.8	-14.8	-16.3	-15.9	-28.1	-19.0	-19.7
	設備稼働	-20.5	-8.5	-	-	-	-	-	-17.4
前期経営実績	売上水準	5.4	16.4	-12.5	-43.8	-17.9	-10.2	-26.4	-9.1
	利益水準	20.9	32.1	6.8	-29.1	0.0	-11.8	-14.7	4.6
	在庫	8.7	0.0	4.7	5.0	0.0	-40.0	-6.7	-0.2
	投資	-2.2	-7.1	-3.5	-18.9	-9.2	-23.4	-16.2	-9.8
	雇用状況	-25.3	-48.5	-22.7	-12.8	-44.8	-21.8	-21.1	-26.3

(注)DI(Diffusion Index)：各項目ごとのプラス要素の比率からマイナス要素の比率を差し引いた数値

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (平成31年1月～3月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		360	136	98	214	67	143	522	1018
業況判断	現在の業況	-4.5	14.8	-26.5	-52.6	-37.5	-9.9	-34.1	-17.1
	3ヶ月後の業況	-19.5	-4.5	-32.0	-50.7	-25.8	2.1	-29.4	-22.6
	半年後の業況	-23.0	-16.4	-32.0	-54.0	-27.9	-11.1	-35.6	-28.4
経営状況	売上	-16.7	15.4	-32.7	-40.7	-45.5	-11.5	-32.2	-20.2
	採算	-22.2	5.2	-29.6	-45.8	-50.7	-33.3	-40.0	-27.7
	引き合い／客数	-11.7	3.8	-9.2	-43.9	-37.9	-18.3	-29.6	-18.9
	単価	-5.9	5.2	-15.3	-37.7	-29.9	-16.5	-26.7	-15.1
	仕入価格	-51.7	-36.3	-45.9	-39.2	-73.1	-18.8	-39.4	-43.4
	資金繰り	-14.3	-4.5	-20.4	-32.4	-31.8	-14.0	-25.0	-18.5
	残業	-11.2	9.7	-10.2	-16.7	-18.8	-19.6	-16.5	-11.1
	設備稼働	-12.6	4.1	-	-	-	-	-	-8.3
前期経営実績	売上水準	7.8	12.5	-15.3	-39.0	-39.4	-12.1	-27.2	-9.5
	利益水準	16.4	18.0	6.1	-27.4	-18.5	-10.6	-15.3	0.4
	在庫	6.4	-0.8	9.4	8.1	4.6	-32.8	-3.0	0.6
	投資	1.7	-5.5	-5.3	-20.4	-1.5	-26.2	-16.8	-8.8
	雇用状況	-32.0	-57.9	-20.6	-15.5	-39.4	-19.3	-20.6	-29.7

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		196	172	59	75	287	223	542	470
業況判断	現在の業況	-14.8	-14.5	20.7	-14.7	-20.9	-41.3	-14.2	-27.2
	3ヶ月後の業況	-24.2	-27.4	1.7	-24.7	-20.3	-44.2	-19.3	-34.9
	半年後の業況	-18.0	-33.1	-12.1	-20.8	-28.5	-52.2	-22.8	-40.0
経営状況	売上	-18.4	-20.5	3.4	-22.7	-12.2	-31.5	-12.7	-26.0
	採算	-23.5	-25.0	5.1	-21.6	-27.4	-35.2	-22.4	-29.2
	引き合い／客数	-12.2	-20.1	-3.4	-16.2	-13.0	-36.3	-11.7	-27.3
	単価	-7.7	-6.4	5.1	4.1	-17.8	-30.9	-11.6	-16.3
	仕入価格	-44.9	-48.8	-37.3	-55.4	-40.9	-50.9	-42.0	-50.9
	資金繰り	-16.4	-20.3	8.5	-20.3	-18.5	-35.1	-14.8	-27.4
	残業	-25.1	-23.3	-1.7	-16.4	-15.5	-23.5	-17.5	-22.3
	設備稼働	-21.0	-20.0	0.0	-15.7	-	-	-16.1	-18.8
前期経営実績	売上水準	3.6	7.6	33.9	2.7	-13.7	-42.8	-2.2	-17.1
	利益水準	23.5	18.0	50.8	17.3	-0.7	-33.0	13.7	-6.0
	在庫	12.5	4.3	1.8	-1.5	-7.5	-5.6	0.8	-1.4
	投資	2.6	-7.6	-3.4	-10.3	-11.4	-22.3	-5.5	-15.0
	雇用状況	-24.5	-26.3	-59.3	-39.7	-24.7	-16.3	-28.4	-23.7

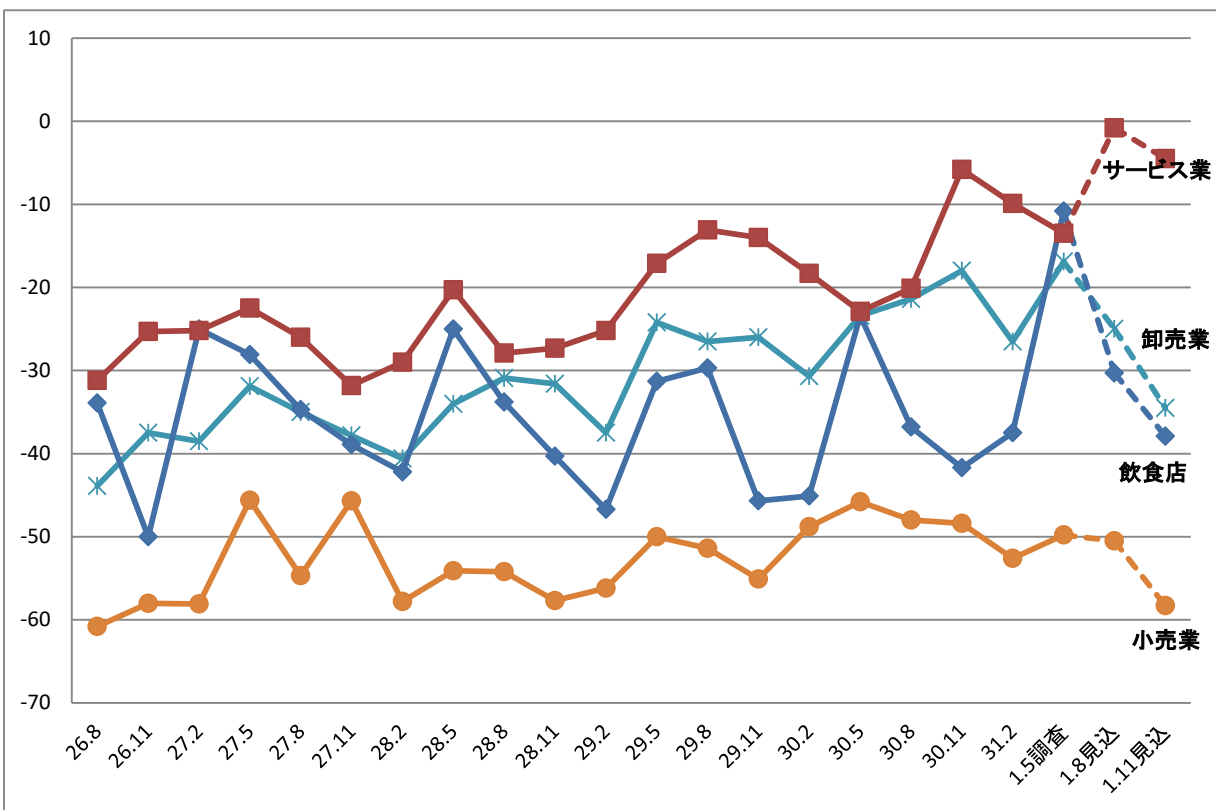
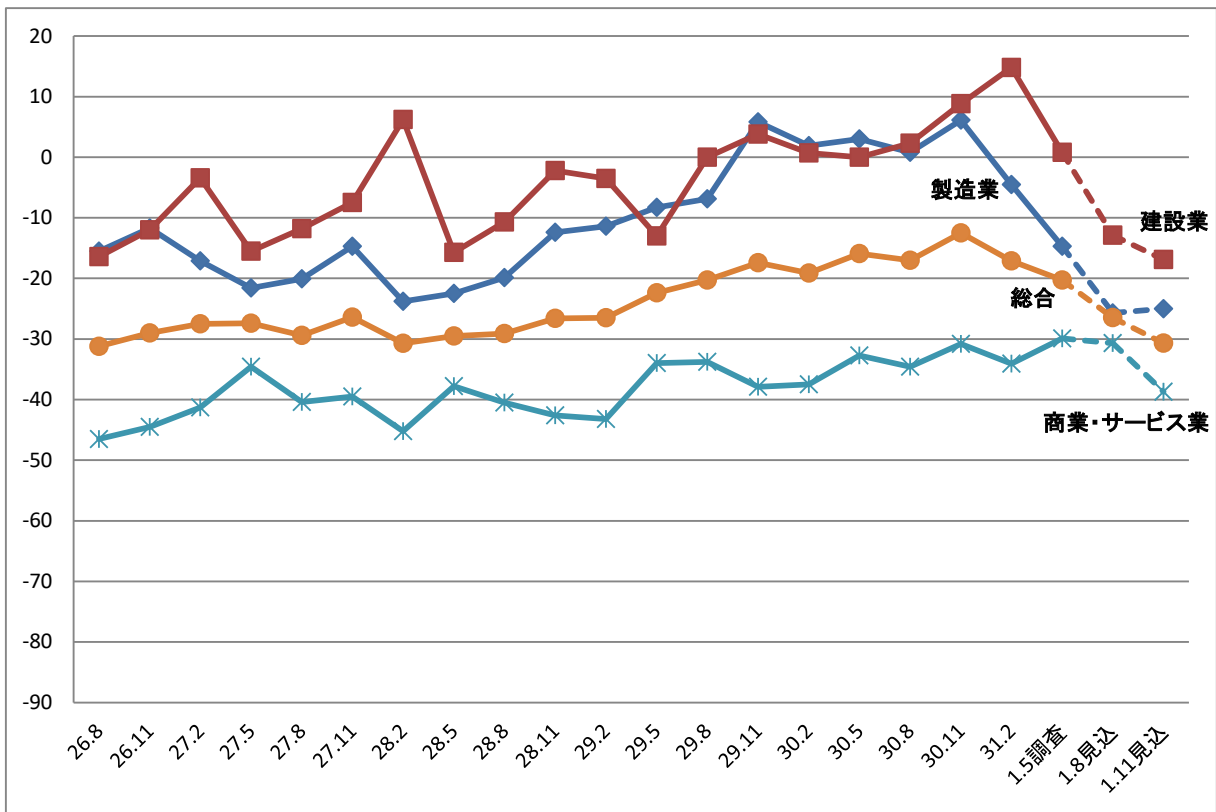
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湖	総合
回収数		268	134	103	103	100	94	114	96	1012
業況判断	現在の業況	-18.7	-12.9	-19.4	-22.3	-22.2	-23.4	-15.9	-34.0	-20.3
	3ヶ月後の業況	-25.6	-23.3	-33.0	-28.2	-25.3	-30.1	-21.9	-28.3	-26.5
	半年後の業況	-30.3	-28.0	-37.0	-41.7	-28.6	-29.3	-20.5	-32.6	-30.7
経営状況	売上	-17.7	-18.0	-13.9	-22.3	-13.0	-26.9	-23.2	-18.1	-18.9
	採算	-25.5	-23.1	-29.4	-24.5	-20.0	-27.2	-32.5	-22.3	-25.6
	引き合い／客数	-16.9	-21.8	-13.7	-29.1	-18.0	-20.2	-15.2	-18.9	-18.9
	単価	-12.1	-6.9	-18.0	-21.4	-11.0	-10.8	-12.3	-22.9	-13.8
	仕入価格	-47.9	-43.6	-48.5	-55.9	-42.0	-48.4	-39.5	-41.5	-46.1
	資金繰り	-16.6	-11.9	-32.0	-22.3	-17.0	-28.7	-21.9	-24.0	-20.6
	残業	-12.5	-16.4	-14.9	-12.9	-26.3	-29.3	-30.7	-27.4	-19.7
	設備稼働	-18.4	-10.1	-9.5	-13.5	-29.8	-20.4	-20.3	-17.1	-17.4
前期経営実績	売上水準	-9.7	-4.5	-10.8	-14.6	-14.0	-11.7	6.1	-17.0	-9.1
	利益水準	8.2	14.9	-2.9	-13.6	9.1	-3.2	16.7	-4.3	4.6
	在庫	-0.4	-3.8	1.0	9.1	-1.0	1.1	-2.8	-3.3	-0.2
	投資	-8.9	-5.3	-14.0	-11.2	-16.2	-6.5	-7.9	-11.8	-9.8
	雇用状況	-24.7	-22.1	-31.7	-30.7	-26.0	-21.5	-28.1	-28.7	-26.3

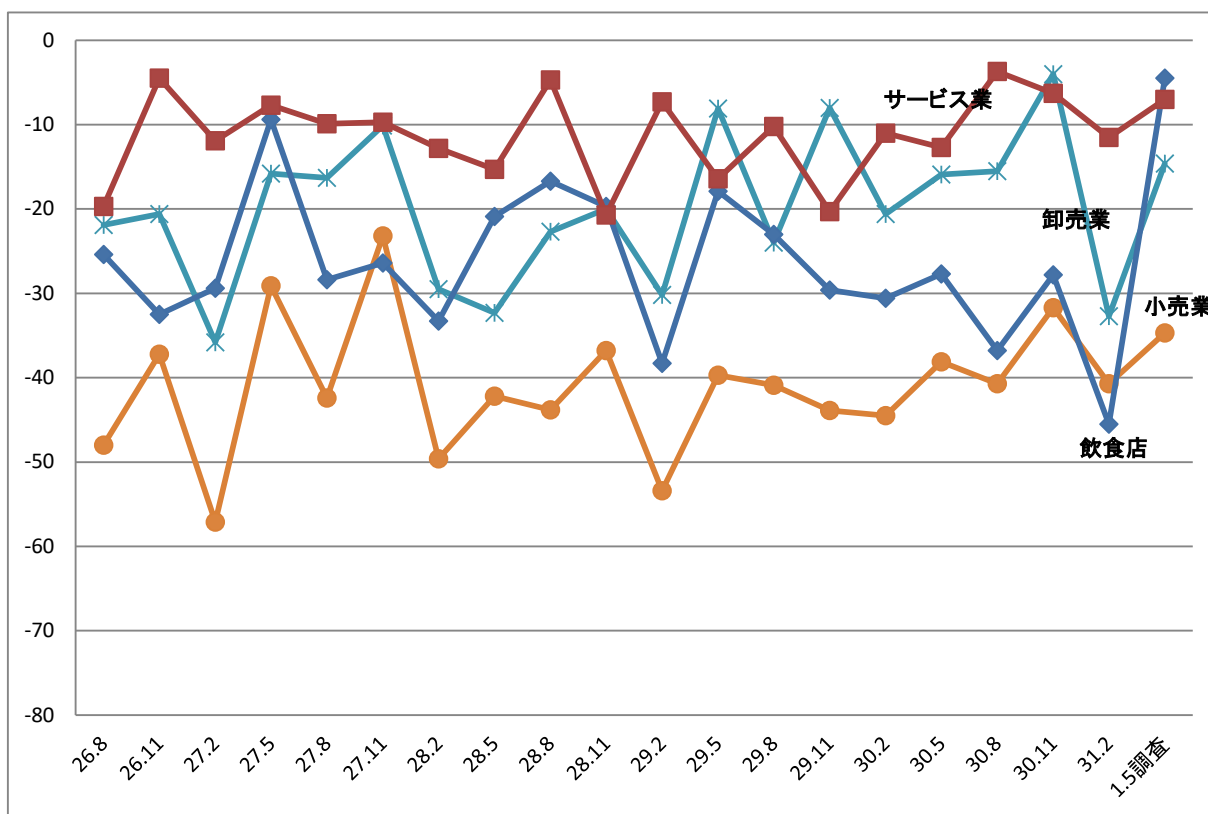
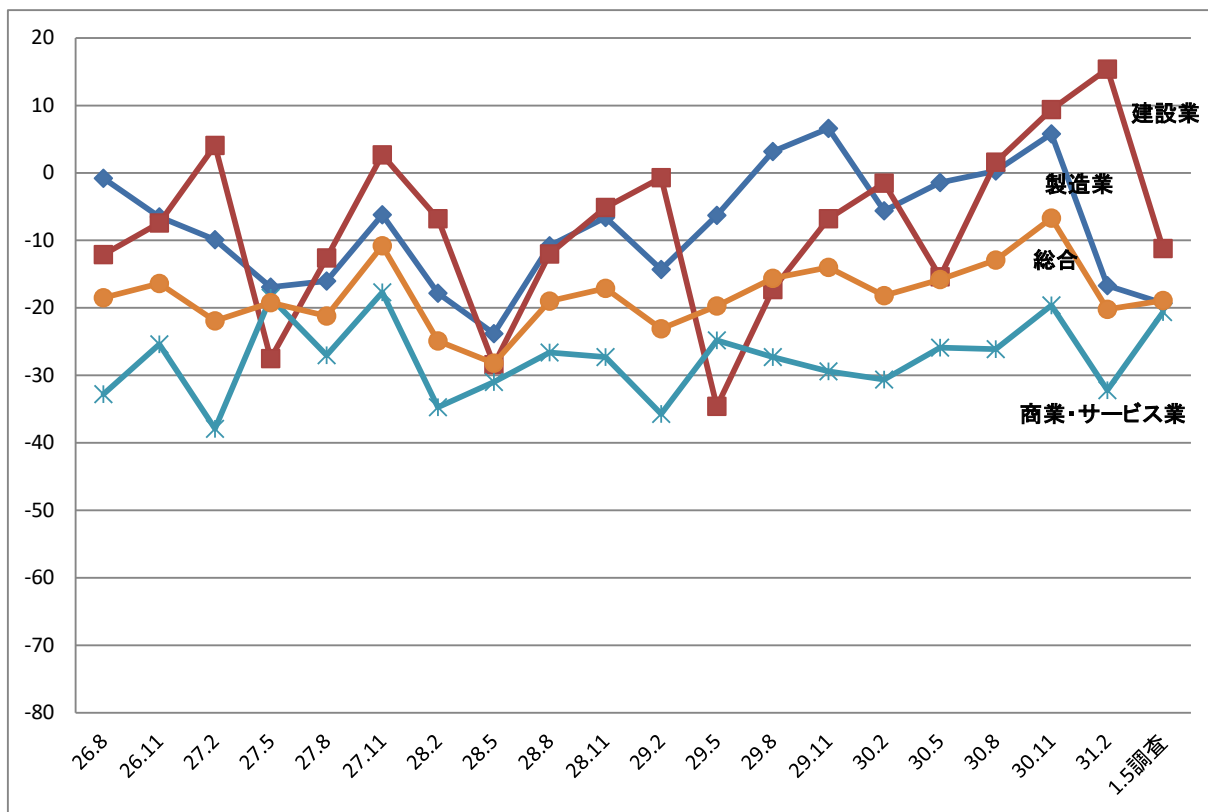
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		94	84	64	126	368
業況判断	現在の業況	-8.5	-22.6	0.0	-21.4	-14.7
	3ヶ月後の業況	-26.9	-22.9	-23.4	-27.9	-25.7
	半年後の業況	-28.3	-20.7	-35.9	-19.7	-25.0
経営状況	売上	-24.5	-31.0	-7.8	-13.6	-19.3
	採算	-26.6	-22.6	-31.3	-19.8	-24.2
	引き合い／客数	-20.7	-19.0	-14.3	-11.1	-15.9
	単価	-8.5	-4.8	-12.5	-4.8	-7.1
	仕入価格	-39.4	-46.4	-39.7	-56.0	-46.7
	資金繰り	-12.8	-15.7	-23.4	-21.4	-18.3
	残業	-20.2	-34.5	-17.2	-24.0	-24.3
	設備稼働	-22.6	-21.7	-17.2	-20.0	-20.5
前期経営実績	売上水準	26.6	8.3	-3.1	-7.9	5.4
	利益水準	29.8	23.8	20.3	12.7	20.9
	在庫	1.2	9.5	14.8	10.5	8.7
	投資	4.3	-6.2	-6.3	-2.4	-2.2
	雇用状況	-24.5	-25.0	-35.9	-20.8	-25.3

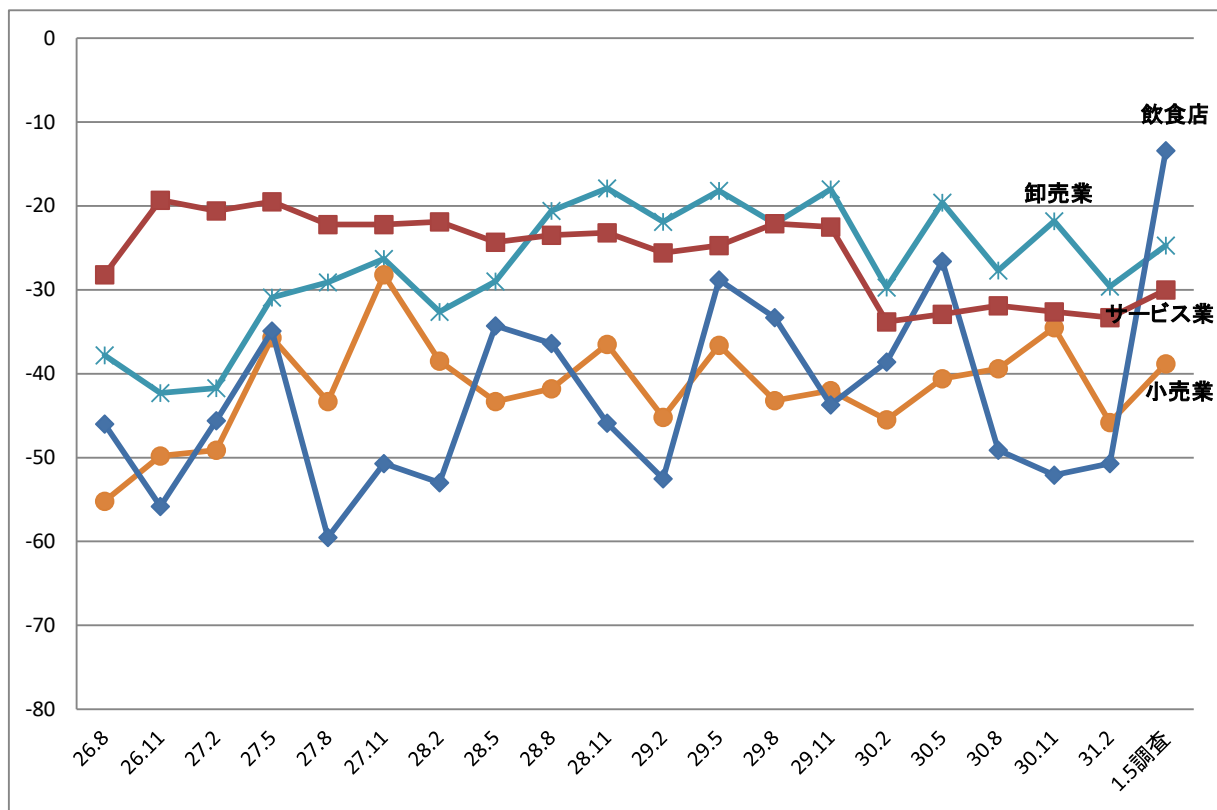
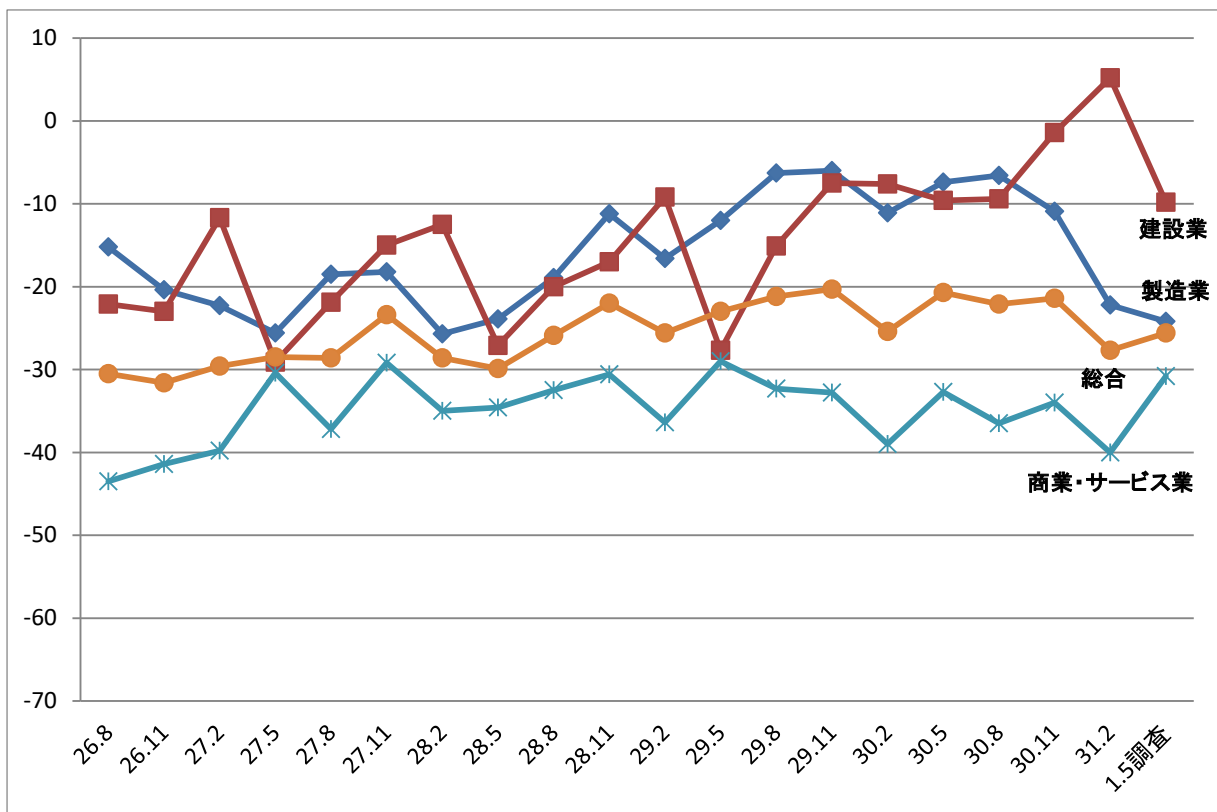
業況DIの推移



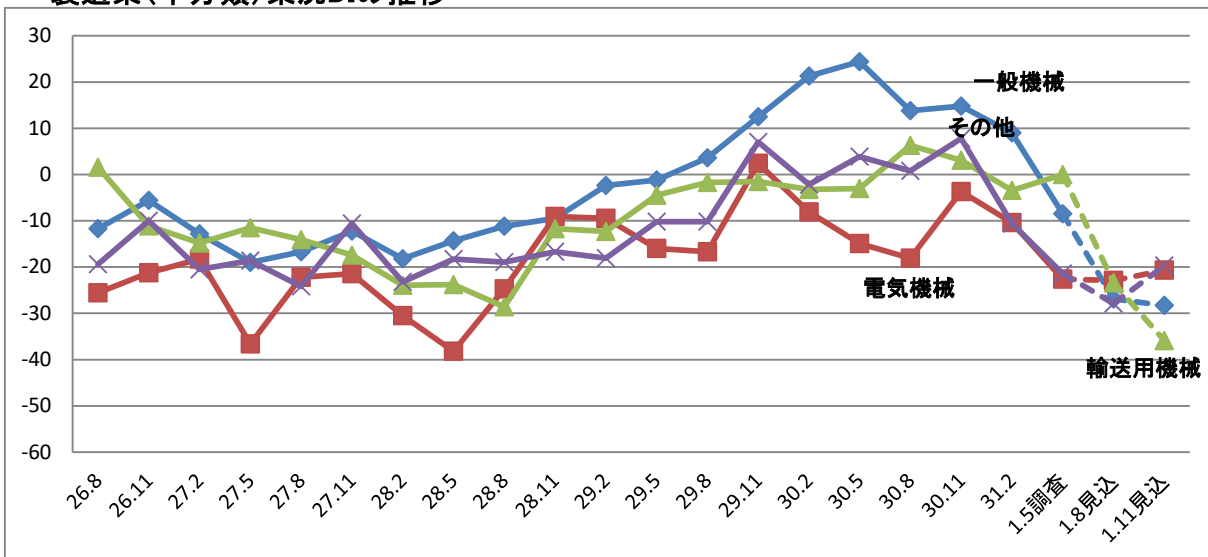
売上DIの推移



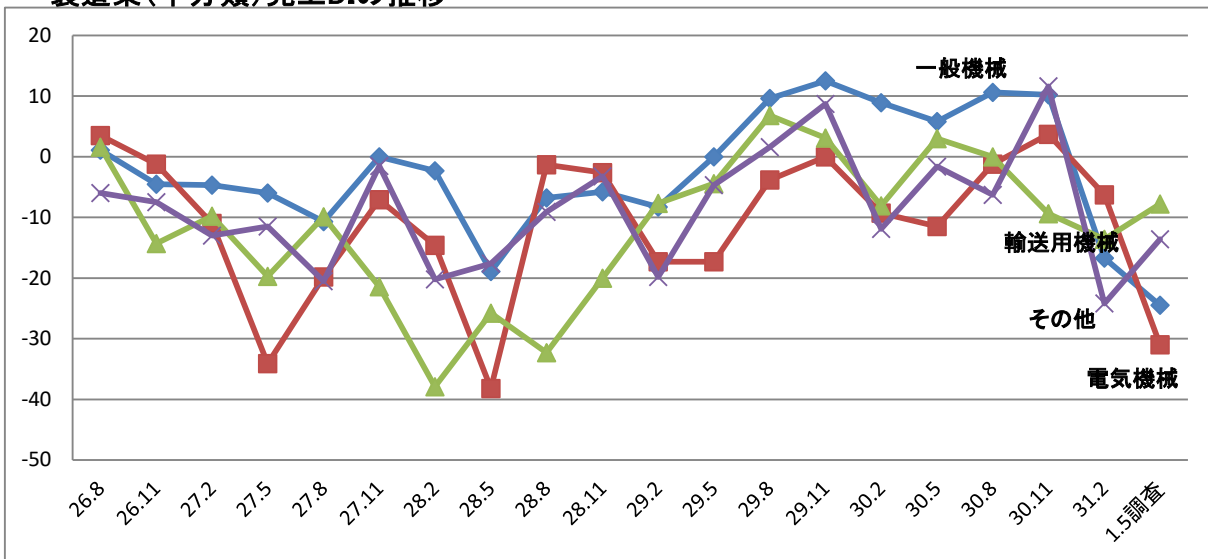
採算DIの推移



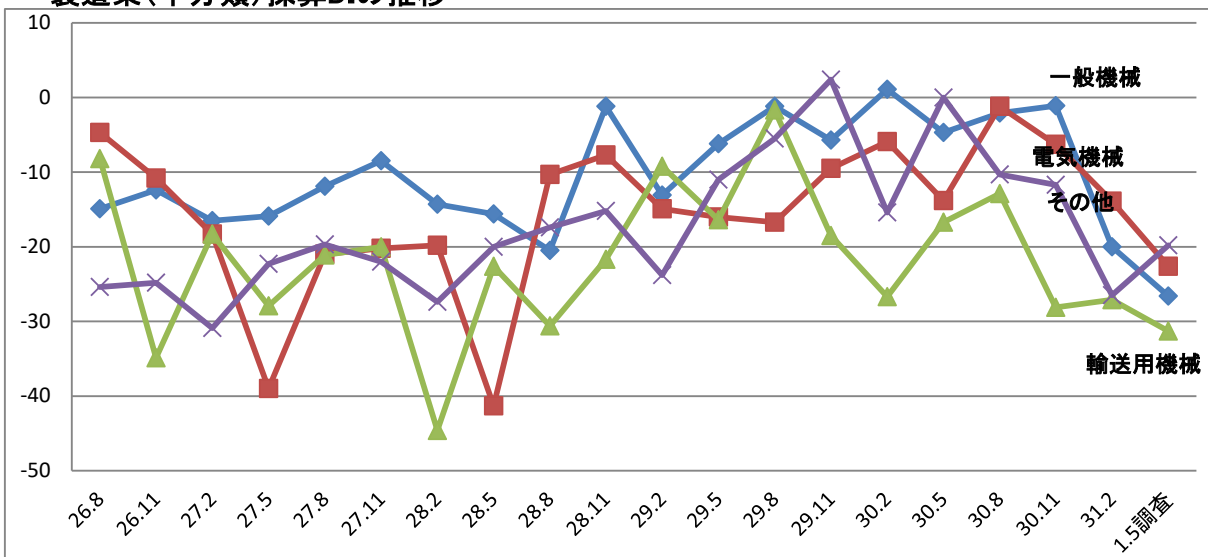
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

受注状況が不安定状態です。
先行き不透明です。半年後の増税が不安です。
全体的に景気は低下傾向がみられる(中国景況・米中関係?)。
他社が廃業して仕事が増えている部分もあるが、中国の影響で減少した部分もある。これからは、中国の影響が大きくなって行くと思われるので、売上減少が予測される。
技能伝承のために継続的に求人を出しているが、採用出来ず、人材が不足している、求人を出しても応募が無い状況。
人手不足により受注を制限している。人手不足解消が、最優先課題である。
人の募集をするも、応募があっても、持続性がなく、確保が困難です。
半導体の落ち込みの影響で、厳しい状況が続いている。
市場の見通しが、国際情勢の変動に伴って悪くなっている。
全体的に、数量が減少している状況です。色々と客先には提案をしていますが、動きが鈍い感じです。
同業の廃業等で引き合いはありますが、単価が安い。その逆に材料費・運賃(原油高騰の為)は値上がりで、利益が大きく増えない。限界に近いのかもしれないです。
同業の廃業に伴い、引き合いは増えているが、全体ではあまり変化ない。
半導体製造設備品の加工下請けです。業界が現在低調です。
仕事量が少なく、安定していないので、従業員を採用出来ない。人員が必要な場合、外注(仲間の応援)で対応している。
業績は、しばらく好調を維持できる。事業の生産効率を上げていけるように尽力する。拡大を狙っていく。
受注単価は変わらないが、経費が多く、利益が下がり、赤字である。
下請受注が安定してないので、減産(お断り)して、全体の売上は少ない(自社商品のみで経営して行く)。
半導体関連のサイクルとして、春先から徐々に上がる傾向にあるが、今年は上がる気配はない。
米中の悪化が要因で発注先の中国立地工場の設備投資を手控えている。6月以降の新規案件が見えてこない。下期は相当苦しい状態を迎えるかも知れない。
大型建設機械業界が依然好調。今年度も更に増える予想。
残業させずに有休は取ってもらうことにしているが、その分、役員に残業等のしわよせが来ている。雇用がうまく出来れば良いが、人材確保も難しいです。

<建設業>

人手不足が解消されない。
人手不足。高卒の新人求人をしているが、中小企業に下りてこない。上場会社に行ってしまう。
人手不足、特に職人の不足で仕事を引き受けられない。材料費、外注費が上がっているが、受注金額はそれに追いつかない。建設業は零細、中小、請負、多重構造を改善すべき時期だと思う。
2020年初めからの工事引き合いが減っていて、見通しきかず。現状は好調だが、先行き不安は変わらず、設備への投資もしにくい。
見積引き合いは増えていますが、人手不足で受注出来ない状況である。
現状維持でやって行きたいと思っているが、今後、人手不足、単価の値上がり、消費税の10%後はかなりきついと思われる。
消費税増税後の状況は確実に悪くなるので、それを考えると頭が痛い。人材不足はここ数年の課題であり、解決策が見えない。
人材が一人増えたが、即戦力になりそうもない。中小企業で、中途採用でも良い人材が来ないのが辛い。
建設業、鉄骨工事のハイテンボルトが無く、受注が減っている。
公共工事の入札は、くじ引きが多いので、何とも言えないです。

<卸売業>

4月に入り急に売上が落ちている。今後、米中貿易戦争が気にかかります。
市場はデフレのまま、適正価格での販売は不振。洗剤等はネットで購入されてしまう。
夏から年末にかけて悪くなりそうな状況です。造船と半導体不調の為。
海外への輸出が好調。
景況上向く兆しは見当たらず、引き続き低迷。
今秋の消費税の増税は、壊滅的なダメージを被る。

<小売業>

商店街への来客減が著しい。インターネット販売等は、ほぼ横ばい。
人口の減少、少子高齢化、働く女性の増加でネット通販への拡大。近隣のショッピングなど私の商店街は影響が大きく大変きびしい状況です。
スマホの普及、インターネット拡大路線、インターネット通販の恐ろしさ、電子マネーの普及、中小の資金繰りが発生するかも。
客数が減っている。近くにスーパーが多く、安売りがあるので単価が下がっている。
この業界は益々不調。近い将来無くなる業界である。
一般小売は全体に苦しいと思います。量販、スーパー、特に家電はネット販売におされてます。また、客の高齢化、減少も苦しい元と成っています。
売上は維持していますが、10月以降の低下は止められないのではないかと。募集費用の増加、そして新入社員の定着率等、問題が益々深刻になるのではないかと。
3月までは昨年対比で売上が好調でしたが、4月以降は不調です。10月の消費税率アップ時は、かけ込み需要を期待する反面、その後の落ち込みが不安です。
少子高齢化、又、年金生活人口増加による支出の抑え、今後は心配です。
業界的に売上は季節に左右されるが、年間売上は不変。消費増税、国策により今後の見通しは良いとは言えない。
安価販売の優位。
顧客が高齢化の為、購買力が低下。新規顧客をどう増やせるか。
買物離れ。本当に必要なものしか買わない。商店街に人が歩いていない。9月迄はなんとか。消費税アップと共にまた売上が下がるだろう。
キャッシュレス拡大で資金繰りが悪くなっている。不安である。
ネット通販は好調だが、店舗販売が悪い。今後は、その傾向がより強まると見ています。

<飲食店>

現金のみでカードが使用できない為、これからが心配です。
やはりカードの使用が増えているので資金繰りが大変です。
業績アップの取組を7年前からやってようやく1年前位からよくなってきた。ただ仕入が高くなってきている点、収益と手元現金(カードが増えてきた)が不足、資金繰りを考えペイペイ導入を考えている。
消費税引き上げ後の売上低迷と、人員不足による労務改善。
10月よりの消費税10%にともない景気が落ち込む、売上げ減少、仕入れ価格の高騰不安。
不振店1店を閉店し新たに新店舗の業績が好調のため経営実績が好転した。

<サービス業>

仕入原価が高くなっている。ライバル会社が高値を付け強気で購入している。弊社は仕入値競争に負けている。
案件は多いが、人手不足のため受注を控えなければならない状態。
仕事はあるのに人手不足による売上げ低下。人件費の高騰により利益悪化。
競争により客単価が下がっている。今後は厳しい。
従来の売上が下がり出している、少しでも利益が出るものに力を入れている。
受注の変動が激しく、好、不調の波が大きい。したがって今後の見通しも予測がしづらい。
価格競争が激しいため、弱小店は見通しが暗い。
昨年4月に入社した新人外国人整備工4人が力をつけていて、人手不足は解消しつつあります。20年ぶりに工賃を値上げしましたが、顧客は減ることもなく順調です。